

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日		作成者	小瀬 裕之
作業名称	スノーポール取替工(壁高欄)	作業手順書	作成年月日	令和6年4月11日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	材料運搬車		改正年月日	
			現場責任者	
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	ハンマードリル、レンチ、スパナ、インパクトドライバー、石頭ハンマー、サンダー		協力会社	会社名 -
	ほうき、塵取り、水平機、スノーポール(上部、下部)、取付バンド2組、アンカー		協力会社責任者	自署サイン -
保護具	ヘルメット、手袋、防護メガネ、防塵マスク		作業順序 1 現地確認 2 準備作業 3 スノーポール撤去 4 基礎設置 5 スノーポール設置 6 後片付け 7 8	
	自動車運転免許証			
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す				
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者 1人、作業員 2~3人 合計 4~5 名			
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日		
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自署サインする)			

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
現地確認(全員)	作業箇所確認	危険ポイントの確認						
	周辺安全確認	構造物の確認						
準備作業(全員)	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認						
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認						
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。 <b>工事車両幕がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。</b> 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 <b>車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。</b>						
既存スノーポール撤去 (現地に残っている場合)	インパクトドライバーを使用し 固定金具を撤去する。	手元注意						
	破損したスノーポールを撤去する。	スノーポールの撤去	スノーポールを撤去するときに、長尺物のため近くの作業員に当たる	△	△	△△	3	周囲の確認、声掛けを行い周知する。また、分解できる場合は上部・下部に分解する。
アンカー施工	ハンマードリルを使用し壁高欄にアンカー孔を削孔する。	手元注意	ハンマードリルで手を怪我する。	×	△	×△	4	無理な体勢で作業しない。 手袋を着用する。
	粉塵注意	削孔時粉塵が目に入る。		×	△	×△	4	防護メガネ、粉塵マスク、手袋を着用する。
	石頭ハンマーでアンカーボルトを打ち込む。	手元注意	石頭ハンマーで誤って手を打つ	×	△	×△	4	無理な体勢で作業しない。
スノーポール設置								
	壁高欄にスノーポールを設置し、バンドで固定する。	スノーポールが傾かないよう、水平機を使用し、垂直に設置する。						
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている						工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事